



大すきいっぱい土の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和4年9月1日
土井首小学校
文責：校長 江原芳樹
第8号

急激な長崎市内のコロナ感染拡大で、今年の夏は特別厳しい夏となりました。さらに、このまま夏が終わらないのではと思わせるほどの猛暑が続いていましたが、9月を前に朝晩には秋の気配が感じられるようになりました。間違いなく季節は移り変わろうとしています。

2学期は、1年間で最も登校日数が多い学期です。学年ごとの力を入れるべき行事があり、まさに「学びの2学期」「活動の2学期」です。まだまだ制限のある教育活動ではありますが、2学期の学びを通して、活動を通して、さらなる子どもたちの成長をめざす2学期を創っていきたくと強く願っています。

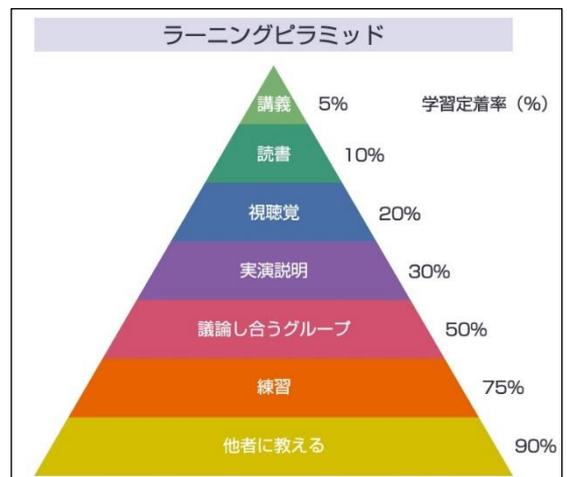
2学期、家庭学習に力を入れます！

「学ぶことの本質は何か?」、私たちの研修ではよく耳にするテーマです。

「学ぶこと」は、単に知識のある者から聞いたり、印象的な動画等の視覚的情報から得ることではありません。学んだことを自分でもう一度試したり、実践したりすることで本物の学びとなり、「身についた学び」になります。

アメリカ国立訓練研究所の研究によると、学習定着率がラーニング・ピラミッドという図で表すことができます。(参照)

- 講義（聞いて学習）→ 5%
- 読書（読んで学習）→ 10%
- 視覚的（見て学習）→ 20%
- 練習（繰り返す）→ 75%
- 教授する（教える）→ 90%



あくまでも一つの指針ではありますが、体験的にも聞いたり、見たりただけで学習が十分に達成できないことは実感できます。繰り返し練習したり、学習したことを自ら他者に教えたり（学びの活用）することで確かな定着になるのです。

家庭学習で自主学習に積極的に取り組んでいる子どもたちがいます。その多くは、自ら学習テーマを設定し、主体的に取り組んでいます。また、その内容を見ていると、学校の授業で学んだことをノートを通してもう一人の自分に伝えたり、教えたりする作業を行っています。まさに学習定着率の高い学習に取り組んでいるのです。

先生から課題として出された宿題だけが家庭学習ではありません。自主学習にこそ、子どもにとって有効な学習があります。

土井首小学校では、自主学習の取組に重きを置いていきたいと考えています。学校のリーフレットで示した「家庭学習の時間のめやす（低：30～40分、中：60～80分、高：

90分以上」の実践を一層促していきます。

家庭での学習には、保護者の皆様の協力が不可欠です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

引き続き感染対策をしながらの学校生活です。

この夏休みは行動制限のない夏休みでしたが、長崎市を中心に県内での感染拡大が見られました。2学期が始まり、学校での感染拡大が起こらないようもう一度感染対策を徹底しながらも、必要な教育活動を確実に実施していきたいと考えています。

7月15日に配付した「新型コロナウイルス感染症に係る対応について」の文書でお願いしたとおり、引き続き次の点について確認ください。

- 児童本人に、発熱や咳等の症状がある場合は自宅で休養し登校を控えてください。
- 同居の家族に未診断の発熱等の症状が見られる場合も登校を控えてください。
- 登校前の健康観察チェックは引き続きお願いします。

医療機関がひっ迫している状況です。かかりつけ医での受診ができない場合は「受診・相談センター（0120-071-126）へ相談ください。

また、数日の欠席が必要となった場合は学習の対応など担任より連絡があります。必要に応じてご相談ください。

クリーン作戦、ありがとうございました！

8月28日（日）、育友会の呼びかけでクリーン作戦を実施しました。除草作業を行う学校は多いのですが、教室やトイレなどを中心とした校舎内の清掃作業を行う学校はあまりありません。土井首小学校の良い伝統だと感じています。

日頃から子どもたちと先生たちで清掃活動は行っていますが、やはり大人の力が入るとその仕上がりは違うものがあります。不思議とクリーン作戦で清掃活動を行った場所が明るくなった印象です。子どもたちでは掃除させられない、窓などを拭き上げてもらったからでしょうか。

少し秋めいた一日でしたが、額にはたくさんの汗が流れていました。参加していただいた保護者の皆様、心より感謝申し上げます。

《校長室散歩道 R4 版 No.8》

「三つの種」という似たような話が、日本とヨーロッパの農耕民族の間に言い伝えられてきました。どちらから伝わったのではなく、豊かな暮らしをするための知恵として、経験的に「三つの種」を学んできたのだと思います。

一つ目の種は、今年の収穫としての種。今の自分たちが生きていくための「種」です。

二つ目の種は、未来のための種。来年からも実り豊かな生活をしていくための「種」です。

三つめの種は、共生のための種。鳥や周辺の動物のために残しておく「種」です。

豊かに生活をするためには、自分のことだけを考えてもダメ、共に生きていくことが必要だという教えだと思います。

学校には多様な子ども、先生がいます。多様な人たちが共に豊かに生きていくためには、こうした「三つの種」の教えを今一度大切にしていかなければと強く感じています。